# 審査の結果の要旨

氏名　村上慶子

本研究は、歯科受診の経済状況による較差とその要因の検討を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1．歯科受診の経済状況による較差に関する文献をレビューした結果、歯科受診の経済状況による較差はどこの国でも比較的一貫して存在していることを確認した。歯科診療の保険カバー率の低さからその較差の要因は支払い能力の違いとみなされていること、加えてその他の社会的要因（口腔の健康や歯科受診に対する価値観や行動規範など）が経済状況による較差として表出している可能性が指摘されているものの十分には検討されていないことも同時に確認した。

2．歯科受診の経済状況による較差に関する文献を年齢層と診療内容の違いに着目してレビューした結果、いくつかの研究では、若年層では較差がほぼみられないこと、予防診療での較差が最も大きいことが示されていることを確認した。

3．経済指標に関する文献をレビューした結果、経済指標は Bourdieu(1984)のいう経済資本と文化資本（価値観、知識、行動規範など）を併せ持つこと、中高齢者では資産、現役の労働世代では所得が文化資本の側面を比較的強く反映している、消費は年代層にかかわらず経済資本の側面を比較的強く反映していると理論的に考えられることを確認した。

4．全国５都市に居住する中高齢者（52-79 歳）を対象としたデータの使用許可を得て、経済指標（所得、資産、消費）を説明変数、歯科受診（過去１年間の歯科受診の有無）をアウトカムとして分析を行った。その結果、所得、消費では歯科受診の較差はほぼみられなかった/小さかったものの、資産（金融資産、実物資産、全資産）はいずれの変数とも高い層に有利な受診較差がみられた。

5．東京近郊に居住する現役の労働世代（25-51 歳）を対象としたデータの使用許可を得て、経済指標（所得、金融資産、消費）を説明変数、種類別の歯科受診（過去１年間の歯科受診の有無）をアウトカムとして分析を行った。その結果、全体の歯科受診（治療か予防のいずれかで受診）では、消費で較差がみられない一方で、所得と金融資産では高い層に有利な較差がみられた。治療受診をアウトカムとすると、所得でのみ高い層に有利な較差が若干みられたものの、総じて小さかった。予防受診をアウトカムとすると、３つの経済変数とも高い層に有利な較差がみられ、特に所得と金融資産で大きな較差がみられた。

以上、本論文は日本の地域住民における歯科受診の経済状況による較差の存在を示した。さらに、文化資本の側面が比較的強いと理論的に考えられる指標（中高齢者では資産、現役の労働世代では所得）での較差が、経済資本の側面が比較的強いと理論的に考えられる指標（消費）よりも大きいことを示したことから、歯科受診の経済状況による較差は支払い能力（経済資本）だけでは説明できない可能性が示唆されたと言える。そのため、較差縮小のためには低経済層への負担軽減などの金銭的援助だけでは解決できず、その他の介入点（価値観や行動規範の違いに影響されないような受診機会を設定する、価値観や行動規範の差異の縮小を目指すなど）も同時に考える必要性を示すことができた。本研究は、歯科受診の較差を是正するための介入点同定に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えらえる。